

<特別講演> 遊離腫瘍細胞と末梢血循環腫瘍細胞：肺癌外科医の立場から

○澤端 章好

奈良県立医科大学附属病院・呼吸器外科

末梢血循環腫瘍細胞(circulating tumor cell: CTC)は、腫瘍から出た循環血液中の遊離腫瘍細胞で、単発(single)CTC と集塊形成型(cluster)CTC に分けられ、転移病巣は主に cluster CTC から形成される。Cluster CTC の特徴は、1)長期間生存、2)幹細胞関連の転写因子が活性化、3)高い腫瘍形成能、4)形態を変化させながら集塊で毛細血管内を移動できるなどである。CTC の臨床的意義は1)細胞診による診断、2)治療のモニター、3)分子診断のサンプル(遺伝子診断、免疫組織化学)で、短期培養による増幅で感度が上がる。CTC 抽出方法には、1)メッシュなどのサイズ選択法、2)比重法(CD45 細胞排除)、3)表面抗原を指標とする回収、4)rt-PCR などがあり、適宜選択することができる。CTC に掛かる研究は今後重要性が増し、その含意探索が期待される。

